

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成31年2月18日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690500048
法人名	医療法人 親貴会
事業所名	グループホーム てね
所在地	鹿児島県いちき串木野市上名5050番地1 (電話) 0996-33-2210
自己評価作成日	平成31年1月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成31年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・H27年4月より敷地内に児童発達支援センターと就労支援施設等の障害者施設が開設し、子供達やサバイバーの方と交流を図っている。
- ・毎朝申し送り時に理念を復唱し、理念に沿ったケアが出来るように取り組んでいる。
- ・年4回のホーム便り(てね便り)発行し、地域の方や家族の方に配布を行っている。
- ・四季の行事を行ったり、年に1回、誕生日の月に本人の要望を取り入れ、家族と話し合いながら、わがままdayを実施したり生活リハを取り入れながら生きがいを見出し、今を楽しく生活できるように支援している。
- ・地域や家族、同法人内施設で協力してペットボトルキャップを収集し、ボランティア活動を行っている。
- ・地域でころばん体操があり、毎月1回ホームに来て下さりころばん体操を実施している。
- ・介護相談員事業に参加し、毎月1回入居者と話しをして頂き、サービスに関して不安や不満を聞いて頂きサービスに繋がられるように実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当事業所は敷地内に同系列の児童発達支援センターと就労支援施設等が併設され、交流を楽しめる環境にある。
- ・自治会に加入し、運動会や夏祭り・鬼火焚き・餅つきなどの地域行事に積極的に参加する一方、炊き出し訓練やペットボトルキャップ収集によるリサイクル活動にも多くの地域の人々の協力を得ている。「ころばん体操」を地域住民と一緒に行うなど、日常的に地域交流を大切にしている。
- ・利用者一人ひとりが張り合いや喜びに繋げるように、個々人の誕生日に、要望に応える「わがままデイ」を実施し、家族も交えて外出の楽しみを支援している。月2回の刺身の献立も楽しみの一つになっている。
- ・管理者は職員が働きやすい環境作りに配慮し、資格取得に向けた支援や各種研修への参加を促している。職員のチームワークも良く、ケア対応等の更なる向上に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を、各ユニット毎に掲示している。朝礼時に毎回職員間で復唱し、意識付けを行い、ケアを実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念で、事業所内やパンフレットに掲示している。朝礼時に復唱し、意識づけし、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、行事等の参加を通じ、当事業所への行事の参加を促し、交流をしている。ペットボトルキャップ収集のリサイクル活動にも、地域の協力を得られている。	自治会に加入し、回覧板で地域と情報を共有している。鬼火焚きや六月灯などの地域行事に積極的に参加する一方、炊き出し訓練やペットボトルキャップ収集のリサイクル活動にも、地域住民の協力が得られている。敷地内保育園児のハロウィンの訪問やボランティア受け入れも行っている。月1回の「ころばん体操」などで日常的に地域と交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	当事業所で、作成をしている。「てね便り」を、自治会回覧板を介して提供している。施設での取り組みの報告だけではなく、認知症のケアに関する情報を掲載し、地域の方々に理解を得られるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では、地域の方々を交え、当事業所職員からサービスの実地や入退去状況等の情報を、毎回行っている。互いに情報交換をすることで、サービスの改善や向上に活かされている。</p>	<p>運営推進会議は定期的開催し事業所の状況や外部評価結果報告などを行い、意見交換をしている。AEDについての質問や長期入院後の対応について等の説明をすることで事業所への理解を深めたり、情報発信の場にもなっている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>当事業所の運営に関する事で、疑問があった際には、市担当者に関わり合いを行なっている。市が主体となる。アンケート調査については、迅速に対応するように努めている。</p>	<p>市担当者には、電話や窓口に出向き事業所の実情や取り組みを伝え資料や助言を貰っている。アンケート調査への協力や介護相談員の受け入れも行っている。市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>法人内及び当事業所において、定期的に身体拘束に関する勉強会を実地しており、職員は積極的に参加をしている。日常のケアにおいて、どのような事が身体拘束に該当するかを理解し、拘束を行わないようにしている。</p>	<p>法人全体での研修会に参加した職員が復命で報告し、事業所でも身体拘束についての研修を実施している。言葉による拘束を含め事例検討などで、職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間は玄関の施錠はせず、職員の連携で安全な生活を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内及び当事業所において、高齢者虐待の勉強会を行ない、殆どの職員が参加している。利用者のケアに当たり、日頃から職員間でどのような事が虐待に該当するかを話し合い、意識し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活支援事業や、成年後見制度については、法人内外の研修や勉強会により、学ぶ機会を得ている。必要性については、適宜検討をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容等の説明時は、専門用語等はなるべく使用せず分かりやすい言葉での説明に努めている。加えて、ご家族等には極力疑問点や不明な点等が無いように尋ねるようにし、十分に理解及び納得して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族の面会時や運営推進会議等、ご家族等の意見要望を聞き取る時間を設けている。内容により、法人内本部に報告する等して対応し運営の改善に努めている。	利用者からは日々の関わりの中で意見や要望を聞き、介護相談員の結果も参考にしている。家族からは面会や家族会・電話・運営推進会議等で意見を聞く機会としている。年4回ホーム便りも送付している。家族の希望するリハビリに力を入れて、散歩や「ころぼん体操」を取り入れている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>施設長や管理者、またそれに準ずる立場の役職者が窓口となり、毎月の全体会議及びフロア会議や日々の申し送り時(朝礼)等に職員からの意見や提案を聞き取る時間を設けるように努めている。</p>	<p>朝礼や毎月の全体会議、フロア会議、申し送りノート等で職員の意見や提案を聞く機会を設け、その反映を図るよう心がけている。年1回個人面談を行い、相談事は個別に対応している。出された意見で、事業所の買い物は業務時間内に行うなど、就業環境に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は職員個々の勤務状況等を把握しており、個々の適正や諸事情に応じて業務内容を割り振っている。加えて、スキルアップが出来て働きやすい職場環境の整備に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修の案内があればそれを周知するようにしており、各職員のスキルや力量に見合った研修への参加を促している。加えて、可能な限り参加し易いように勤務時間の調整に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区のグループホーム協議会に加盟しており、それを通じた研修や懇親会等に参加し交流の機会としている。それにより、幅広い内容の情報交換を行い質の向上に繋がるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族や担当していた事業所等から本人の特徴やケアの留意点等の情報を事前に得て、それを活用できるように努めている。加えて、本人が早く安心して環境に慣れる事ができるように笑顔でしっかりと話を聞くように職員全員が心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族等が不安に感じている事等があれば、管理者等の役職者が中心となりしっかりと聴くようにしており、それに対して納得のいくような説明に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の支援をして行く上で、必要としている支援内容を一緒に話し合う。その方にとって最も良いと思われる支援の内容を見極め、検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者と共に暮らすことで、会話の中で色々な事を学んだり、出来事を教えて貰うことにより、利用者との関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊時、また施設での行事等で、ご本人やご家族との交流の機会を設けている。また衣替えの季節には、ご家族に協力を頂きながら、関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族や知人の面会時には、ゆっくり過ごして頂けるように、場（ホールソファ・居室）を設けている。地域の行事に参加している。誕生日月には（わがままday）自宅やドライブ・外食また墓参り等、馴染みの人との関係が途切れないように支援をしている。	家族や友人知人の訪問の際には、お茶を出すなどしている。地域の行事に参加したり、手紙や電話の取次ぎも行っている。誕生月には「わがままデー」を設け、外食や墓参・買い物・自宅へのドライブなど、馴染みの人や場との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションが図れるように、レクリエーション等を交え、交流を図っている。また利用者同士の会話が出来る場を設けながら、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、法人内に入院された際には、職員がお見舞いに伺ったりしている。必要に応じて、相談など支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の生活の中で、利用者の思いや希望の把握に努め、ケアを行っている。気付いた点や問題は、職員間で話し合い意見を共有している。困難な場合には、ご家族に相談するなどし、ケアに取り組んでいる。	日々の関わりの中で声をかけ、言葉や表情などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は家族や関係者からも情報を得、利用者の視点に立って職員で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者との会話や、ご家族からの情報等、また利用者のフェースシートの内容を元に、サービスが出来る様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズム・バイタルサインチェック・心身の状態の把握を行い、小さな変化にも気付ける様に注意し、情報を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の希望や、ご家族の意向を聞き、主治医の意見書の意見を踏まえた介護計画書を作成する。担当者会議では、それを元に話し合い、サービスを提供している。	本人・家族の意向を確認し、主治医の意見も参考に担当者会議で話し合い、個々に応じた介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ケアでの気づきを個別に記録している。また、状態の変化や、細かな気づきも介護記録に残し、職員間で話し合い情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族との何気ない会話や、状況に応じたご家族の相談の中で、より快適に過ごして頂ける様に、取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公民館行事（夏祭り・運動会・餅つき）に参加している。施設の行事には、地域の方々ボランティアとして参加され、交流を深めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と、ご本人及びご家族からの了承を得て、日頃からの様子を念頭に入れ、変化が見られた場合には、かかりつけ医に連絡し指示を仰ぐ体制を作っている。	本人や家族の希望で、ほとんど母体医療機関が主治医である。受診は定期的に職員が支援している。必要に応じて歯科往診もある。他科受診は家族対応を支援している。母体医療機関と24時間医療連絡体制を築いており、緊急時の対応などに連携を取りながら適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日常と違う体調変化が見られた場合には、病院の看護師に連絡をし指示を仰ぎ、適切な受診や看護が受けられるようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院された際には、生活状況等をサマリーにして、情報提供をしている。入院後は面会へ行き、看護師へ状態確認を伺うなどして、情報共有をしている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ご本人やご家族の意向を話し合い、ご本人の負担が少なく安心して頂ける様に、医療機関との連携体制を充分にしている。利用者の状態変化に応じて、その都度話し合いを重ね、適切と思われる方法で取り組んでいる。</p>	<p>契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意書を貰っている。状況変化に伴い本人や家族と話し合い、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。事業所でできる事を伝えて、緊急時の適切な医療を受けられるよう支援している。緊急時のマニュアルを作成し勉強会も行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成し、対応が出来る様に勉強会を行なっています。また消防署の方々に、応急手当や心肺蘇生の講習をお願いをしています。夜間には、待機者を設けています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>避難訓練を年2回実施しています。年1回は、地域の方々やご家族の方々の協力を頂いて、炊き出し訓練を行なっています。</p>	<p>消防署立会いのもとで年1回、自主で年1回の夜間想定避難訓練を実施している。避難訓練や炊き出し訓練にも、運営推進会議参加者や地域の人々・家族も参加するなど協力体制ができている。スプリンクラーや緊急通報装置も設置し、防災設備は定期的に業者が点検している。水や米・缶詰・レトルト食品・カセットコンロなどの備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格や気持ちを考え、尊敬の念を持って接しています。利用者の状況を十分に理解し、プライバシーを損なわないような声掛けを行なっている。	マニュアルに沿って定期的に勉強会を行い、職員の資質向上に取り組んでいる。入室時や入浴・トイレ誘導などでは羞恥心に対する配慮を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に沿った声掛けをし、日常生活の中での希望を聞き、ご自分で決めて頂ける様に支援しています。例えば、飲み物などは「何が飲みたいのか」いくつかの中から選べるように提案しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちは変化があるため、個々の気持ちを大切にし、強制しない支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	好みや希望・清潔を考え、服や髪形などおしゃれが出来る様に、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみの多くを占める食事は、外食の時や日々の食事、美味しく残さずに食べられるように配膳をしています。食後には、出来る事（お盆拭き・おしぼり畳み）をお手伝いして頂いています。	事業所菜園の野菜や旬の食材を使用し嗜好に配慮して個々に応じた食事形態を工夫している。野菜の皮むきや配膳・お盆拭き・桜餅作りなどを職員と一緒にやっている。季節の行事食や弁当持参での花見・ソーメン流しなど、食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に体重測定を行い、体重の増減を把握し、食事量を考慮している。食べ難い食材は、噛みやすく調理をし、栄養バランスが偏らないよう工夫している。水分量は、利用者の状態にあわせ、好んで飲んで頂けるよう工夫し、一定量の水分が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行ない、自力で出来る方は見守りを行ない、必要に応じて磨き残しが無いか確認を行う。介助が必要な方は、声掛けを行ない、うがい動作等本人が出来る事をしてもらいながら、介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄時間帯が長くないように、トイレ誘導の声掛けを行なっている。また、介助が必要な方は、定期的にトイレ誘導を行ない、自立排泄が出来る様に支援している。	排泄のリズムを把握し、必要に応じての声かけをし、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。個々人の状況や意向を大切に排泄用品を使用している。夜間のポータブル使用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	栄養バランスを考慮したメニューや乳製品の提供、水分摂取を促す等を心掛けている。また、日光浴や散歩等も取り入れ、便秘予防に努めている。必要に応じて、医師の診断を仰いでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の、体調やタイミングに合わせて、入浴を行なっている。入浴時には、ゆっくりとリラックスして頂き、入浴を楽しんで貰う様に努めている。拒否が見られる方には、タイミングを見て声掛けを行なっている。	基本的には週3回、午前中になっているが、個々人の体調や希望にそって柔軟に対応している。状況に応じて、清拭や足浴も行っている。ローションや軟膏も使い、入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む利用者にも、職員間で連携して声かけや時間調整などで対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠に繋げるため、日中はレクリエーションや生活リハ等を取り入れたり、短い昼寝時間を設けている。生活にメリハリをつけ、不眠の予防に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の、薬の内容や副作用をきちんと把握し、服薬後、いつもと変わった様子が無いか確認を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	野菜の皮むきや洗濯物畳み等、出来る事をして貰い、達成感に結び付けるよう努めている。楽しみごととして、カラオケ・塗り絵・パズル・雑誌を読んで貰う等、工夫を凝らし、気分転換になるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の個々の体調を見て、施設内の散歩やドライブ等の、支援をしている。地域の行事（夏祭り・運動会・餅つき等）施設での行事（花見・ピクニック・夏祭り等）にも参加して頂けるように、支援している。また誕生日月には、スタッフ・ご家族を交えて、外食も取り入れている。	日常的には、敷地内の散歩や外気浴・ドライブに出かけている。夏祭りなどの地域行事に参加したり、年間計画を立て、初詣やソーマン流し・ピクニックなどに出かけている。誕生月には「わがままデー」を設け、利用者の希望に沿って家族も一緒の外出を支援している。家族の協力で外出・外食・墓参などに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が希望された際には、使用できるように金銭管理を行なっている。また毎月の移動販売を利用し、買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者が、電話を希望された場合には、スタッフよりご家族へ説明し、電話が出来るようにしている。また手紙が届いた場合には、本人へ手渡し読めるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用されるホールでは、利用者が不快と思われる（温度・音・明るさ等）ことの無い様に、気を付けている。また利用者の塗られた絵などを壁に貼り、季節を感じて頂けるようにしている。	共用空間は広々と開放的である。採光や換気・温度・湿度に配慮し清潔である。壁には外出時や行事の写真が貼布してある。季節感を大事にした花や飾りつけがされている。ソファで居心地よく過ごせるような工夫がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が集う空間では、テーブルやソファがある。ソファに座り、外の景色を観られたり、日向ぼっこをされる。またテレビを観て寛がれたり、カラオケをされたり、他利用者と会話をされたり、個々の思い思いの場で寛ぐ事が出来る様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族の希望を伺い、記念の写真や使い慣れた物等、またご家族からのプレゼントを飾り、ご本人が居心地良く過ごして頂けるように、工夫をしている。	居室はエアコン・ベッド・整理棚が設置している。掃き出し窓である。テレビや椅子・衣装ケース・寝具・時計・小物・家族写真・賞状・ぬいぐるみなど、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内では、個々の身体状況に合わせ、生活リハビリ（洗濯物畳み・おしぼり畳み・食器洗い等）を取り入れている。またトイレや居室が分かるようにし、自立した生活が出来る様に支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない